

式辞

厳しい冬を乗り越え、春の息吹が感じられるこの良き日に、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和三年度（二〇二一年度）第一四七回豊中市立新田小学校の卒業式を挙行できますことを、心より御礼申しあげます。

本日、ここに一四四名が、六年間の前期義務教育を終え、素晴らしい卒業の日を迎えました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませす。

六年前の春、真新しいランドセルを背負い新田小学校の門をくぐった日から六年が過ぎました。長くもあり、短くも感じられるこの六年の月日。

きっと皆さんの心の中には、様々な出来事が、走馬燈の様子に浮かんでいることでしょう。

さて、本校にはユネスコスクールとして、新田版学びの四本柱があります。

私は、皆さんが入学されてから今日まで、この「新田版の学習の四本柱」を大切にしてくださいとお話してきました。

それは、皆さんが今後経験する未知なる課題を解決するための道筋になるからです。皆さんの小学校生活・六年間のまとめとして、今から、未知なる課題に挑戦したフィギュアスケートの羽生結弦選手の学習の四本柱についてお話しします。

羽生選手は、北京オリンピックで九十四年振りの三連覇を狙っていました。結果は惜しくも四位でしたが、三連覇をするためには、今までに誰もやったことのないジャンプが必要だと考え、未知なる課題に挑戦しました。

それは四回転 半ジャンプ、いわゆるクワッドアクセルへの挑戦でした。

ただ練習するだけでは、四回転 半ジャンプは達成できません。羽生選手はまず「学び方を学ぶ、飛び方を学ぶ」とから練習を始めました。しかし、練習方法はもちろん、正しい飛び方など誰も知らないのです。羽生選手は得意の3回転半のジャンプをもとに、ジャンプで飛ぶ距離を伸ばせば四回転半になるのではないかとという仮説をたてました。滑るスピードも上げました。しかしうまくいきません。そこで「飛距離」を延ばすという仮説に「飛ぶ高さを高くする」という仮説を加えました。少しずつ手ごたえを感じるようになったそうです。

羽生選手は「学び方を学ぶ」ために仮説を立てたのです。

次は「為すこと」によって学ぶ」段階です。練習を繰り返して四回転半ジャンプを身につけるために活用したのが、毎日欠かさずつけているスケートノートです。スピード、カーブの角度、飛び出しの角度、タイミング、脚の筋力、体幹などの条件を一つ一つ試しました。そして失敗したことについて、その原因を考え仮説を修正していました。「学び方を学ぶ」と「為すこと」によって学ぶ」ことを何回も往復する試行錯誤の連続です。「あともう少し高く飛ぶことや、どれだけ速く

回転に入るか」という所まで技術を高めてきました。

四回転 半ジャンプの練習は過酷です。何度も転びます。そのたびに、体を氷に打ち付けます。その痛みに耐えながらでも、羽生選手が前に進み続けられたのは、「四回転半ジャンプは、ぼくの夢だし、みんなの願いだから」と考えていたからです。

日本のいや世界の人々が前人未到のジャンプに挑戦している羽生選手の背中を押していたのです。「共に生きること学ぶ」ということを羽生選手が感じていたから長く苦しい練習に耐えられたのだと思います。

練習をしているとき、ふと思い出したことがあります。スケートを楽しみ、将来の理想を描き始めた九歳のころの自分自身です。九歳の羽生選手は、

「できるようになるまで、考えて、考えて、何回でも跳べ」と、いい続けたそうです。この言葉を聞いた瞬間、

「これが自問自答なのだ」

と、羽生選手から教えられた気がしました。

オリンピックでは、シューズの刃先が氷に引かかるアクシデントがあり、混乱した気持ちでの演技でした。結果は四位でした。金メダルを獲得したのはネイサン・チエン選手です。

羽生選手は、「チエン選手の演技をとて素晴らしかった」と褒め称えた後、「とても滑りやすく、飛びやすい気持ちのいいリンクでした。氷を作ってくださいました皆様に感謝して

います」とお礼の言葉を述べました。きっと、厳しい練習の中で「自問自答」を続け、「人として生きること」を学び続けていた「羽生選手だからこそ言えた言葉だ」と思います。

また、インタビューでは、「正直、これ以上ないぐらい頑張った。報われない努力だったかもしれない。でも一生懸命頑張った」と話しています。

この言葉を聞いた私は十年ほど前に羽生選手が、

「失敗は、無駄にはならない。失敗しても『その努力の正解』を見つけることが大切」

と、語っていたことを思い出しました。

羽生選手は今後も『努力の正解』を求め続けていくのだろうと感じました。

皆さんのこれからは、未知の課題がたくさん待ち構えています。うまくいかないときがきても、「新田版 学習の四本柱」をもとに、自分の長所と短所を客観的に見ながら自問自答して「努力の正解」を見つけることに挑戦してください。

大人になるまでは、夢を叶えた未来のあなたが、そのときのあなた自身を励まし褒めてあげてください。

また大人になったら「新田版 学習の四本柱」を忘れていくかもしれません。その時は、本日、希望を抱き未来にはばたいている十二歳のあなたが、大人のあなたを叱咤激励してください。

今日は、「新田版 学習の四本柱」の最後のまとめをしました。

さあ、卒業生の皆さん、お別れの時が迫っています。皆さんが学んだ新田小学校は、皆さんの母校であり、ふるさとです。いつでも帰ってきていいのです。私たち職員は、皆さんが顔を見せてくれることを楽しみにしています。

最後になりましたが、保護者の皆様方、お子様のご卒業おめでとうございます。心より本日の良き日をお祝いいたしますとともに、この六年間の皆様のご苦勞に改めて敬意を表する次第でございます。

また、この二年間、私たちなりに最善を尽くしたつもりですが、コロナ禍によりお子様に高学年として力を発揮する場や、学校生活を満喫する場を保障できなかつたことを改めてお詫び申しあげます。

教職員一同は、子どもたち一人一人が、この六年間、この新田小学校で学び続けた「新田版の学習の四本柱」をもとに、未来社会に大きく羽ばたいてくれると信じています。どうぞ、これからも成長をしっかりと見守りながら、子どもたちの持つ力を信じて、子どもたちの自立を応援していただきますよう、重ねてお願い申しあげます。

以上をもちまして私のお祝いの言葉といたします。

令和四年（二〇二二年）三月十八日

豊中市立新田小学校 校長 安家 紀子